

おだやかな晴天に潜む危険な「うねり」!

強い風が吹き「風浪」と「うねり」で沖合いが荒れて見える時は、誰でも危険であることが 分かります。このような日は、小型船なら出港を見合わせるでしょう。ところが、天気が良く て風や波がおだやかに見えても、危険な「うねり」が潜んでいる場合があります。

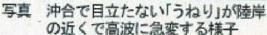
その原因は、遠くにある台風や低気圧が起こした波の余波である「うねり」です。このような「うねり」は、沖合いではほとんど目立ちません。このため休日には、「絶好の釣り日和」とばかりに小型船が沖合いに出ますが、これが「うねり」の仕掛ける<mark>わなの1つ</mark>です。

なぜなら、「うねり」の特性(特性については、R4.4マリンレターNo.107参照。)により、 沖合いで目立たない「うねり」が陸岸近くの浅い海域で小型船を転覆させるほどの高波に急 変することがあるからです。

日本列島の太平洋沿岸沖合いに台風や低気圧がある場合、太平洋沿岸にこのような危険な「うねり」が発生しやすくなります。

新聞やテレビ等の気象情報を確認 し、風の強さや波の高さの予測も大ですが、「風が弱く、波もおだやかですが、「風が弱く、波もおだやかしてはなりません。「天気図」を見てみまします。太平洋沿岸に及んでいることがある場合、余波による「うねり」が大きに及んでいることがありまだやかでも陸に及んでいることがありまず。特に台風や低気圧の勢力が強く、動きが遅い場合は要注意です。







観天望気 (津軽海峡付近の天気のことわざ)

- ・二シ風と手間取り日いっぱい(吉岡地区) 日雇いの人夫は日中だけ働くように、西風も日中だけ吹いて夜は凪に なる。
- 秋のヤマセは凪ればシカタ(入舟地区)秋の東風が吹き止むと、西南西風となり波が立ってきて時化となる。
- ・恵山のボタンはずれて強い風(恵山地区) 恵山(618 気)に暈雲がかかっているときは大丈夫だが、それが切れると風が強くなってくるので要注意。
- 駒ヶ岳に雲かかり北へなびけばヤマセ続く(尾札部地区)駒ヶ岳に雲がかかって、その雲が北の方向になびくと東風か吹き続く
- ・ヤン衆泣かせの風(日浦地区) 秋に一日一杯吹く西風のことで、夜には治まるので漁夫は苦労する。

